臨床クイズ 問題

血痰と咳嗽を主訴に受診した若年の女性

高橋 洋子 海老 規之

〔日内会誌 101：2350～2351, 2012〕

患者：32歳の女性。主訴：咳嗽、血痰。現病歴：23歳まで中国で生活していて、その後、仕事のために日本で暮らしている。来院3カ月前より白色の痰、2カ月前より血痰と咳嗽、膿性鼻汁が出現したために近医を受診し、クラリスロマイシン、デキストロメトロファン、塩酸アンブロキシソールを処方された。鼻汁は軽快したものの、血痰と咳嗽は増悪し、来院1週間より呼吸苦も自覚するようになったため、当科を紹介受診した。経過中に胸痛を自覚することはない、体重減少や食欲不振は認めなかった。既往歴：なし。社会歴：喫煙なし、飲酒なし。薬剤歴：定期処方薬なし。アレルギー歴：なし。家族歴：兄：喘息。身体所見：意識は清明。身長159 cm、体重44.5 kg、体温37.1℃、脈拍92回/分、整、血圧96/70 mmHg。SpO₂ 97% (room air)。心雑音なし。呼吸音は左肺で減弱、呼吸副雑音なし。腹部異常所見なし。神経学的異常所見なし。表在リンパ節触知せず、皮疹なし。検査所見：血液所見：WBC 5,380/μl (Neut 49.9%, Lymp 18.6%, Mono 2.6%, Eos 27.1%, Baso 0.4%), RBC 425万/μl, Hb 13.1 g/dl, Ht 41.4%, Plt 26.3万/μl。血液生化学：Glu 72 mg/dl, TP 7.7 g/dl,

図1. 胸部X線写真

Alb 4.0 g/dl, BUN 12 mg/dl, Cre 0.8 mg/dl, T-Bil 0.8 mg/dl, AST 15 U/l, ALT 8 U/l, LDH 168 U/l, ALP 151 U/l, γ-GTP 8 U/l, CPK 39 U/l, Na 137 mEq/l, K 4.0 mEq/l, CL 104 mEq/l, Ca 9.3 mg/dl, CRP 0.18 mg/dl。〈喀痰グラム染色〉WBC2+, 細菌を認めない。胸部X線写真と胸部単純CTを図1, 2に示す。

飯塚病院呼吸器内科

Series: Let's Think-Clinical Quiz (Question); Young Female with Cough and Hemoptysis.

Yoko Takahashi and Noriyuki Ebi: Iizuka Hospital, Japan.

図 2. 胸部単純CT

問 題

1. 画像所見は何か
2. 画像所見からの鑑別診断は何か
3. さらに必要な病歴聴取は何か
4. 診断確定に必要な検査は何か

著者のCOI (conflicts of interest) 開示：本論文発表内容に関連して特に申告なし